

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 6月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2770103428		
法人名	社会医療法人 ペガサス		
事業所名	グループホーム ポニー		
サービス種類	(介護予防) 認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市南区御池台2丁7番 府営御池台2丁住宅 第3棟301号		
自己評価作成日	平成 22年 4月 14日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
② 情報提供票を活用する場合	別紙情報提供票のとおり

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 5月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同区内のグループホーム連絡会（8事業所）が立ち上がって4年目になり、関係者との連携も年々良くなってきました。昨年末からは何か地域に向けて出来ることは無いかを考え、寸劇を通して認知症の啓発活動を行っています。また、事業所主催の交流会も7年目に入りすっかり定着し、運営推進会議に参加頂いている民生委員の方を通じて住民の方とも良い関係作りが出来るようになりました。開所当時から、利用者の方にも施設に籠もる生活では無く外部の方と関わる機会を多く設けており、施設で生活する上で少しでも楽しめる時間を感じてもらっています。また、少人数だからこそ出来る、利用者個々の生活リズムに合う支援を行い、家庭的な環境で生活して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

府下に於けるグループホームとしては最も古く、開設して9年になり、その間に蓄積したノウハウを活用し、職員も永年勤続しており、利用者も安定した生活を送っている。
所在地は堺市南区の御池台(みいけだい)にある府営住宅の1階で、ホームのすぐ近くには地名が付いた池のある公園があり、利用者は散歩をしながら池を見下ろして、のんびりと楽しんでいる。
又、ホームの運営は、堺市の社会医療法人 ペガサスで、多角的な経営をしている医療福祉事業部門の一つとして、少人数の定員ですが、法人の各部門からのバックアップを得て、理念に基づいた支援を続けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して理念に基づいた支援を行うようにホーム会議でも話し合う機会は多く、またそのようにしている	毎月不定期ではあるが職員会議で、理念の実践について、検討する場を持っている	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している	利用者は全員老人会に加入しており、職員は自治会役員に選出され任務にあっている。事業所主催の交流会や地域行事への呼びかけも多く、積極的に参加している	利用者は、地域の老人会の各種行事(折り紙教室、生き生きサロン等)に参加している	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会役員会や地域会議への参加は勿論だが、昨年からは、南区のグループホーム協議会では寸劇にて認知症啓発活動を開催している	/	/
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、サービスの質の向上に努めている	2ヶ月ごとに開催されて、諸報告を始め、ご家族代表からもご意見を伺っている。地域の行事等の情報も頂いている	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同区内や堺市全域のグループホーム連絡会には地域包括支援センターも参加している事から、行政と話をする機会も多くなっている	同地域のホーム連絡会が南区役所内で開催され、介護向上に活かしている	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	グループホームで身体拘束をしない事は周知しており、関連研修にも参加しホーム会議内で伝達研修を開催、周知徹底している。しかし集合住宅でもあり変質者が多いと報告も受けており、民生委員や家族と話し合いを持ち、結果玄関は施錠している	毎年、外部で身体拘束についての研修会があり、終了後、出席者がホーム職員に伝達報告をして研修をしている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	それをテーマにした研修参加に努め、事業所内で伝達研修も開催している。また、運営推進にて地域包括支援センターから話を伺うことも多い		
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	堺市全域の会議に講師を招いて勉強会を開催した。また、地域のケア会議には校区の権利擁護担当者の出席もあり、学ぶ機会が多い		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に時間をかけ説明を行っている		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員、並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不平不満を持っている様子があればそれぞれの利用者との相性を踏まえて訴えし易い職員が対応し環境整備に努めている。また、家族とも個別に話を出来る機会や、運営推進会議にも参加して頂き意見等を伺っている	職員と利用者のご家族とは面識を深めており、何かとご意見があれば直ぐに対応している	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、すれらを反映させている	ホーム会議で意見をまとめ、運営者との定期面談で伝達している	定例の職員会議で自由な発言があり、問題があれば、日頃よりコミュニケーションをよくしているので、直ぐに対処している	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	管理者は賞与査定の際には期間中の評価を受け、事業所では管理者から部下にその結果を伝達し、向上心に繋がっている		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修への参加は勿論だが、事業所内でも定期的に勉強会を開催。内容も職員からの希望も取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同区内グループホーム連絡会、堺市全域のグループホーム連絡会を開催している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	申し込みがあれば面談を行い、希望・要望を出来るだけ把握するように努めている		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	特に緊急性のある相談であれば具体的に話を聞くように努めている。そうでない場合は無理強いせず傾聴するようにしている		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談を受ける際は入所を前提としての話が多く、他のサービスに繋がった事はない		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	日頃の関わりから経験談、家族からは趣味や嗜好等、事前に情報提供を頂き、ホームでの生活に生かしている。また、職員から一方的に提示せず、一緒に考えるように配慮もしている		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	本人や家族の気持ちを否定せず、必要であれば仲介している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援	日常会話の中で出来るだけ多く取り入れ、忘れてしまう事がないように努めている	ご家族は殆ど毎月1回は来訪され、職員と話し合っている	
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○ 利用者同士の関係の支援	利用者の間に共通点がないかを見極め必要に応じて仲介。また、日常生活の中でそれぞれが助け合える場面を設定し、少しでも良い関係が築けるように工夫している		
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○ 関係を断ち切らない取り組み	サービスの終了に伴い関わりが無くなる事が殆どではあるが、近隣から利用されたケースもあり、サービス終了後も関わりを持つことはある		
		サービス利用（契約）が終了しながら、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いやり意向の把握	本人から意思を伝えるのが困難でも日頃の関わりや家族の話から本人を知る事で何を求めているのか理解できるように努めている	職員は利用者とはリビングで会話を楽しんでいる。何かを考えておられる様子があれば、確かめるようにしている	
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○ これまでの暮らしの把握	本人や家族から日頃の状況を伺い、居宅で利用したサービスがあれば、介護支援専門員や事業所の職員から情報提供を得ている		
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○ 暮らしの現状の把握	家事やレクリエーション等、皆で出来る事を準備はしているが、利用者にも得意不得意があり無理強いほしくないように努めている。また、自室で休憩時も定期巡回を行い、状況把握に努めている		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	定期的にサービス担当者会議を開催しており、家族や本人の意見を検討しケアプランに生かしている。また、最低でも3ヶ月に1回は見直しを実施している	利用者一人ひとりについて、担当者会議を毎月、行なっている	
		本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	記録以外でも申し送りノートを準備しており、些細な事でも職員が周知できるように活用している		
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	役所や保健所等、家族が出来ない書類申請等の代行や急な通院時の付き添い等可能な範囲内の支援を行っている		
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	日頃から地域とは良好な関係を保っており、文化祭や防火訓練などの誘いを受けている。地域の方も施設の現状を把握した上で協力してくれている		
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	入所時に、主治医や家族と協議し状態に医療を受けて頂いている。また、必要に応じて訪問診療には家族も同席してもらい、相互関係を築けるようにしている	毎月2回、クリニック医師の往診を頂いている。歯科医師の診療も頂いている	
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 看護職員との協働	変化等、気付いた事があれば申し送りノートや個人記録等の書類に記載。特に重要な事は口頭でも伝達し職員が周知出来るようにしている。また、主治医に連絡する程度で無い時は法人内の訪問看護師に連絡し指示を仰いでいる		
		介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	運営法人にて急性期病院を運営しており、緊急時や急変時はいつでも受け入れる態勢が整っている。同じ法人内である為円滑に情報交換や入退院が行える		
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人・家族・主治医とは状態変化についてしっかりと話しが出来る場を設け、施設で出来る範囲を理解頂いた上で、出来る限りの支援を行っている	入所時に看取り、重度化の話し合いをして頂いているので、その方針に従って対処している。	
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	法人内研修や訪問看護師が研修を実施しており、事業所内でも振り返りを含め勉強会を開催している		
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	地域の避難訓練や施設独自の避難訓練を実施しており、自治会からも災害時要援護者リストへの登録の依頼があり家族の了承の下登録している	地域の方々とも、避難訓練を毎年実施している	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	言葉掛けや対応については職員間で注意を払っており、むやみな行動の制限、尊厳を無視したような対応があれば徹底した指導を行い改善に努めている	職員会議等で機会があれば、言葉掛けのルールの話し合いを繰り返している	
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	自己決定を支援し、上手く表現出来ない利用者からは日頃からコミュニケーションをとる事で希望や要望をくみ取れるように心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日頃からコミュニケーションを図り、利用者個々の生活リズムやペースを把握し、職員の都合でなく利用者を尊重するようには指導しているが、ケアが重なる事で困難な場合がある		
		○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している	気分転換を兼ねて近所の美容室に出掛けて散髪したり、利用者の好みに沿った身だしなみが出来るような支援を行っている		
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者が出来る範囲内で、無理強いせずに援助している。また、外食や毎日のメニューを一緒に考えてもらう機会も設けている	職員が交代で炊事を担当し、食材も近くのスーパーで購入しているが、利用者も一緒に出向いて買物をしている	
		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に応じ、主治医と適量を検討、調整している。また、食事・水分と共に摂取量は記録に記載し、職員も周知できるようにしている		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別にて口腔ケアの誘導を行い、出来ない方や不十分な方は職員で介助を行っている		
	43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を支援しており、感覚が鈍くなった方に対しては声掛けにて誘導し、出来るだけパットやリハビリパンツの使用を控えるように支援している	排泄管理表に従い、利用者を誘導している。又、職員同士で一人ごとの情報交流を行い、排泄困難な方についても、話し合っ支援している
○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			便秘予防の為に水分量の調整や食材やメニューも工夫し、運動不足にならないように毎朝体操したり天気の良い日には散歩にも出掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に隔日で入浴を行ってはいるが、個々の心身の状況に応じている。職員の配置上、希望に添った時間での入浴を行って頂くのは難しい	入浴を嫌がる方があり、職員は説得の台本を用意する等して工夫している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れや倦怠感の訴え等、利用者の状態を把握し対応している。また、寝付きが悪い時などはゆっくり話を聞いたり、落ち着くまで出来るだけ付き添うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	誤薬がないようし配薬表を活用している、また、新しい薬が処方されれば薬剤師からも説明を受け記録に記載し周知しており、定期開催のホーム会議でも更に伝達している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に関しては入所時に所定の用紙にて家族から情報を得ている。その情報を活用して個々の能力に応じて役割を持ってもらい、達成感や自信を持てるような支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は設けており、地域行事に参加の際は、民生委員をはじめ老人会の方も誘導等は手伝ってくれている。しかし、個別対応は難しい為、家族に相談し協力を得ている	地域行事の花見、敬老会、盆踊り等に参加している、文化祭には利用者も出品して楽しんでいる。又、偶には外食店へも出掛けて、楽しく食事をしている	
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	本人希望で金銭を所持している方も居るが家族から紛失等の了解は得ている。また、外出で買い物に出掛けた際は自分で支払い行為が出来る支援を行っている+B27		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	本人から希望があれば家族に対しての電話のやりとりの支援をしている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	レクリエーションにて季節に合った制作物を製作、掲示している。廊下にはすだれを設置し、余分な光を遮っている	リビングは、狭い空間ながら季節に合った制作物を一緒に作って飾っている	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース上困難ではあるが、ベンチを設置し少しでも居心地が良くなるように工夫はしている		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	入所時には出来るだけ自宅で使い慣れた物を持ち込んでもらえるようお願いしている。家族も承知しそのようにしてくれている	各自で、又は、ご家族と話し合っ、自由に家財等を持ち込んでいる	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上死角も多く解消しきれない場所も多いが、生活上必要最低限の場所には手摺を設置している。また、利用者にもその都度注意を促している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		① ほぼ全ての利用者の
		○	② 利用者の2/3くらいの
			③ 利用者の1/3くらいの
			④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある
			② 数日に1回程度ある
			③ たまにある
			④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている		① ほぼ全ての利用者が
		○	② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		① ほぼ全ての利用者が
		○	② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
		○	③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○	① ほぼ全ての家族と
			② 家族の2/3くらいと
			③ 家族の1/3くらいと
			④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		① ほぼ毎日のように
			② 数日に1回程度
		○	③ たまに
			④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		① 大いに増えている
		○	② 少しずつ増えている
			③ あまり増えていない
			④ 全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が
			② 職員の2/3くらいが
			③ 職員の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う		① ほぼ全ての利用者が
		○	② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が
			② 家族の2/3くらいが
			③ 家族の1/3くらいが
			④ ほとんどいない